

平成28年度厚生労働科学研究費補助金
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業
分担研究報告書

ヒトパピローマウイルスワクチン接種後障害の病像と問題点

研究分担者 西川典子 (愛媛大学大学院医学系研究科 薬物療法・神経内科学)

研究要旨

HPV ワクチン接種後障害の多様な症状として、頭痛、全身倦怠感、立ちくらみ、運動障害、記憶障害などの認知機能の異常などを来すとされる。一般にこのような症状を呈した患者を診療して、鑑別診断に挙がる様々な器質疾患を除外できた場合には functional neurological symptom disorder (FNSD) と診断することが多い。当院で診ている HPV ワクチン接種後障害の患者もワクチン接種歴以外はこの範疇に入る症状を呈している。今回、当科にて診療した 10 代患者を抽出し、FNSD の症状や生活状況について検討した。FNSD と考えられたものは、10 代の 25%にあたる 6 例で、男性 3 例、女性 3 例と男女は同数であった。女性 3 例のうち HPV ワクチン接種歴があったのは 2 例であった。FNSD の患者は 6 例のうち 5 例が通学に困難を抱えていた。FNSD は男女の差なく、全年齢において認められ、決して 10 代に限った疾患ではないが、この世代の FNSD 患者の問題点として通学困難による学習、社会経験の遅れが懸念される。医師と患者・家族という関係性だけでは不十分で、多職種での介入により、病院や学校・地域との関わりを保持する努力が必要である。

A. 研究目的

ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン接種後障害の患者は、新規発症者は殆どおらず、現在通院しているのは長期間にわたり愁訴に悩まされ日常生活や学校生活に支障を来している患者である。HPV ワクチン接種後障害の多様な症状として、頭痛、全身倦怠感、立ちくらみ、運動障害、記憶など認知機能の異常などを来すとされる。一般にこのような症状を呈した患者を診療して、鑑別診断に挙がる様々な器質疾患を除外できた場合には functional neurological symptom disorder (Conversion disorder) (以下: FNSD) と診断することが多い。神経内科外来には 10 代の若い受診者数は少ないもののある一定数存在し、そのうちの少なくない頻度で FNSD がみられる。この中で HPV ワクチン接種歴があるものもいるが、そうでないものもある。HPV ワクチン接種後の症状と、同世代の FNSD 患者との

症状の類似点と相違点を明らかにするため、症状や生活状況について比較した。

B. 研究方法

2016年1月から12月までの1年間に当科にて診療した10代の患者の診断を抽出し、FNSD と診断された症例については、その症状や HPV ワクチン接種歴、通学・就労状況について検討した。

(倫理面への配慮)

当研究は基本的には個々の症例について記載した症例報告であるため、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」には該当しないと考える。また、個々の症例を特定しうる情報を含まないように留意した。

C. 研究結果

2016年1月から12月までの1年間に当

科で診療した 10 代の患者は 24 例（男性 13 例、女性 11 例）であった。FNSD と考えられたものは、10 代の 25%にあたる 6 例で、男性 3 例、女性 3 例と男女は同数であった。女性 3 例のうち HPV ワクチン接種歴があったのは 2 例であった。

FNSD の主な症状は、一肢の運動麻痺が 2 例、頭痛や腹痛、関節痛などの痛みが 3 例、意識消失発作が 1 例、体温異常 1 例であった。過眠の訴えは HPV ワクチン接種歴のある 1 例にのみ認められた。FNSD の発症誘因として、男性 3 名は部活動の人間関係や力量不足、1 名が家族との死別、1 名が HPV ワクチン接種と推測された。

FNSD の患者は 6 例のうち 5 例が通学に困難を抱えていた。そのうち 1 例は普通公立高校を中退して定時制高校に通学していた。通学困難の主な理由は、痛みや発熱などの病状が続くため学校に登校できない、夜型生活や過眠のために朝起床できないため登校できない、などがみられた。過眠による朝の起床困難を訴えたものは、ワクチン接種歴のある 1 例であった。ワクチン接種歴の有無による、症状や通学状況の相違点は認めなかった。

D. 考察

FNSD は器質的な疾患は認めないもの予後は良好な疾患ではないとされる。身体症状の重篤さ、複雑さから日常生活を送ることが困難となる。また、家族や医療者を含めた周囲の無理解に対して心身ともに苦しむことが多い。FNSD は男女の差なく、全年齢において認められ、決して 10 代に限った疾患ではないが、この世代の FNSD 患者の問題点として通学困難による学習、社会経験の遅れが懸念される。ワクチン接種後障害の患者に特徴的な症状としては過眠による起床困難がみられ、朝からの通学が十分にできない状況であった。

症状軽快しないまま卒業年齢に達した場合には、進学や就労もできずに、社会的なつながりが絶たれて家庭に埋もれてしまうことが危惧される。身体的心理的な側

面だけでなく、社会的な視点からもリハビリテーションや認知行動療法、通所サービスなどの介入により、病院や学校・地域との関わりを保持する努力が必要である。医師と患者・家族という関係性だけでは不十分で、多職種での介入が望まれる。

E. 結論

10 代の FNSD 患者 6 例について検討をした。男女は 3 例ずつと同数で、ワクチン接種歴の有無で症状や通学状況に相違は認められなかった。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表 1. 論文発表 なし 2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得 なし 3.その他 なし